

科目名 都市地理学特別演習
Title Special Seminar on Urban Geography
科目区分 D 特別演習 (1 年次)

教授 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
		4	通年

目的

現代の都市問題に焦点をあて、都市地理学や経済地理学の視点から問題を提起し、解決する方法を検討して、自らの研究成果を発表する手段を学ぶ。毎回履修者から報告を求め、その報告をもとに討論する。前期は各自の問題関心に基づいて文献研究を行い、後期は博士論文の執筆に向けた立論ならびに調査方法を議論する。

達成目標

発表や討論を通じて、問題自己発見能力、問題自己解決能力、プレゼンテーション能力の素養を高め、学会発表や査読つき論文に研究成果を公表させることが本講義の目標である。

スケジュール

- 第 1 回 前期のガイダンス
- 第 2 回 問題関心についてのプレゼンテーション (1)
- 第 3 回 問題関心についてのプレゼンテーション (2)
- 第 4 回 問題関心についてのプレゼンテーション (3)
- 第 5 回 文献リストの作成 (1)
- 第 6 回 文献リストの作成 (2)
- 第 7 回 文献研究 (1)
- 第 8 回 文献研究 (2)
- 第 9 回 文献研究 (3)
- 第 10 回 文献研究 (4)
- 第 11 回 文献研究 (5)
- 第 12 回 文献研究 (6)
- 第 13 回 調査実務の検討 (1)
- 第 14 回 調査実務の検討 (2)
- 第 15 回 前期のまとめ
- 第 16 回 後期のガイダンス
- 第 17 回 夏季休暇中の調査報告 (1)
- 第 18 回 夏季休暇中の調査報告 (2)
- 第 19 回 夏季休暇中の調査報告 (3)
- 第 20 回 改善点・修正点の検討 (1)
- 第 21 回 改善点・修正点の検討 (2)
- 第 22 回 改善点・修正点の検討 (3)
- 第 23 回 改善点・修正点の検討 (4)
- 第 24 回 改善点・修正点の検討 (5)
- 第 25 回 改善点・修正点の検討 (6)
- 第 26 回 査読つき論文の執筆に向けた準備 (1)
- 第 27 回 査読つき論文の執筆に向けた準備 (2)
- 第 28 回 査読つき論文の執筆に向けた準備 (3)
- 第 29 回 査読つき論文の執筆に向けた準備 (4)
- 第 30 回 後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に定めない。

参考書 野間晴雄ほか編著『ジオ・パルNEO[第2版]:地理学・地域調査便利帖』海青社, 2017
梶田真ほか編著『地域調査ことはじめ-あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版, 2007

授業外での学習

世の中で起こっている出来事に関心を持ち、自分自身の意見や考えを整理しておくことが望ましい。また、各自でさまざまな地域に赴いて、地域を見る目を養ってほしい。

評価方法

討論への参加度 (70%)、レポートの完成度 (30%) によって評価する。

履修上の注意

発表者が無断欠席した場合、履修停止 (不合格) となるので注意すること。

科目名 農村地理学特別演習
Title Special Seminar on Rural Geography
科目区分 D特別演習(1年次)

教授 西野 寿章(ニシノ トシアキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本特別演習では、農村、山村地域に関する地理学、社会学、経済学、民俗学などの古典的名著から、農村、山村地域に関する研究の深化を学び、博士課程研究の一助とする。
地域政策の研究は、現代の地域に関わる諸現象に中心が置かれがちであるが、そうした研究には専攻分野の諸学説を十分に理解したうえで行うことも必要である。時代や経済社会構造が変化すれば、分析の視点や求める解にも変化が生じるのは当然であるが、学術的な視点を忘れてはいけない。そのためには、古典的名著と呼ばれる先学の研究業績に学びつつ、博士後期課程に学ぶための素養を身につけたい。

達成目標

関連諸分野の古典的名著が解き明かそうとしたことを的確に捉え、学んだことを自身の研究にどのようにフィードバックさせることができるのかという視点を持てることを到達目標とする。

スケジュール

第1回	オリエンテーション
第2回	文献解読：長岡新吉『日本資本主義論争の群像』(1)
第3回	文献解読：長岡新吉『日本資本主義論争の群像』(2)
第4回	論点整理：長岡新吉『日本資本主義論争の群像』の論点を整理する
第5回	文献解読：上林貞次郎『日本資本主義と国民生活』(1)
第6回	文献解読：上林貞次郎『日本資本主義と国民生活』(2)
第7回	論点整理：上林貞次郎『日本資本主義と国民生活』の論点を整理する
第8回	文献解読：福武直『日本農村の社会構造』(1)
第9回	文献解読：福武直『日本農村の社会構造』(2)
第10回	論点整理：福武直『日本農村の社会構造』の論点を整理する
第11回	文献解読：宮本常一『村のなりたち』(1)
第12回	文献解読：宮本常一『村のなりたち』(2)
第13回	論点整理：宮本常一『村のなりたち』の論点を整理する
第14回	履修者自由選択文献紹介
第15回	まとめ
第16回	文献解読：宮本憲一『社会資本論』(1)
第17回	文献解読：宮本憲一『社会資本論』(2)
第18回	論点整理：宮本憲一『社会資本論』の論点を整理する
第19回	文献解読：古島敏雄『山村の構造』(1)
第20回	文献解読：古島敏雄『山村の構造』(2)
第21回	論点整理：古島敏雄『山村の構造』の論点を整理する
第22回	文献解読：柳田国男『山村生活の研究』(1)
第23回	文献解読：柳田国男『山村生活の研究』(2)
第24回	論点整理：柳田国男『山村生活の研究』の論点を整理する
第25回	文献解読：藤田佳久『日本の山村』(1)
第26回	文献解読：藤田佳久『日本の山村』(2)
第27回	論点整理：藤田佳久『日本の山村』の論点を整理する
第28回	文献解読：西野寿章『山村における事業展開と共有林の機能』(1)
第29回	文献解読：西野寿章『山村における事業展開と共有林の機能』(2)
第30回	まとめ：農山村研究の歴史と今日的論点

教科書・参考文献

教科書 指定する学術書。解読を行う文献は、絶版になっている文献が多いが、可能な限り、古書店で見つけて所持していることが望ましい。

参考書 適宜、紹介する。

授業外での学習

自らの研究テーマの独自性を確認するために、研究テーマに関連した学術論文を多く読みこなすことが重要である。

評価方法

農山漁村地域の社会変動の研究には、シラバスにある古典的な研究業績を十分に理解していることが必須である。評価は、各単元毎の報告をふまえて討論を行い、報告と討論の内容から理解度を計測して行う。(100%)

履修上の注意

演習生は、可能な範囲において、学部ゼミナールが行う山村調査にRAとして同行する。

科目名 現代政治学特別演習
Title Special Seminar on Contemporary Politics
科目区分 D 特別演習 (1 年次)

担当教員
教授 増田 正 (マスダ タダシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1		4	通年

目的

本演習では、現代政治学の研究分野のなかで、履修者本人のテーマ設定と問題意識に応じて、博士論文の作成に向かって指導教員が個別的に支援する。まず、研究計画を再確認しながら、具体的な作業工程表を設定する。テーマ設定の後、当該領域に関わる先行研究・文献を広く渉猟し、研究テーマの変更、仮説の設定に関する助言などを通じて、博士後期課程における研究計画を着実に遂行する。本演習は、基本的に個人作業である。履修者から定期的に中間報告を受けつつ、博士論文作成に向けた進行管理を行っていく。研究の課題設定を失敗すると、博士論文作成は土台の上に成果を積み上げていく方式のため、途中での修正が難しくなることが予想される。その意味では、テーマの設定を最重要テーマと見なし、研究課題のコアを明確化できるようにしたい。

達成目標

研究者または高度専門職業人に必要な学術的な基礎を固め、博士後期課程の標準的な研究水準をクリアし、学術論文の投稿及び学会発表を実現させる。学位論文の作成のため、日本地域政策学会またはその他の関連学会での個別報告及び研究論文の投稿を想定している。

スケジュール

・1年次は、修士論文を確認し、その内容を基礎として研究計画を策定する。先行研究のレビューを行い、分析手法を検討し、後期課程にふさわしい高度な研究手法の活用を目指して、研究手法の精緻化及び高度化を進める。学術論文を投稿する準備を段階的に進め、前期の段階で1本目(査読付き)の投稿、1回目の学会報告を行うことを目指し、指導する。投稿論文は査読を経て、掲載されるまで修正作業を行い、1本目の掲載、1回目の報告が年度内に完了できるようにする。特別演習では、執筆から発表までの演習生の作業を課題ごとに支援する。学会の加入、発表情報のあっせん・紹介などを適宜行っていくとともに、必要があれば、研究費などの申請に関わる研究計画の策定も支援を行う。
・2年次は、学論文審査基準に沿った形で、学位論文作成資格申請要件を満たすように研究を継続し、学会発表、投稿論文を積み上げられるように段階的に努力する。
・3年次は、学会報告3回、投稿論文3本(うち2本査読付き)を満たしたうえで、資格審査(6月頃)、予備審査(11月頃)、本審査(12月頃)へと歩を進め、論文を完成させる。最後に、最終試験、公開論文発表会を経て、学位が授与される。

・1年次

ガイダンス

1回～5回 修士論文の確認、研究計画の確認、先行研究のレビュー(1)
6回～10回 先行研究のレビュー(2)、仮説の設定、分析手法の検討
11回～15回 学会発表支援、投稿論文作成支援、調査・統計解析(1)、前期まとめ及び休暇中の課題設定
16回～20回 調査・統計解析(2)、プレゼンテーションスキル、プレゼンテーション演習
21回～25回 研究計画の再検討、中間報告、論文投稿準備(1本目)
26回～30回 1年次研究総括、2年次への課題設定

・2年次

ガイダンス

1回～5回 中間成果の確認、研究計画の再設定
6回～10回 学会発表(2回目)の準備
11回～15回 投稿論文(2本目)の準備
16回～20回 投稿論文の投稿、修正、再投稿
21回～25回 学会発表(3回目)及び投稿論文(3本目)の準備
26回～30回 2年次研究総括、3年次への課題設定

教科書・参考文献

教科書 履修者と相談のうえ決定する。

参考書 履修者と相談のうえ決定する。

授業外での学習

研究計画を念頭に、履修者による中間報告のため、事前準備作業を行うことと、講義内に受けた指導、アドバイスなどを踏まえ、次回の報告内容を改善するためのフィードバック作業を行うことが求められる。

評価方法

平常点で評価する(100%)。参加意欲、報告内容、理解度等を勘案して総合的に判断する。

履修上の注意

大学院科目に共通することであるが、欠席の場合、直接事前連絡を義務付ける。また、必要に応じて関連する別の特別演習の履修を勧めることがある。博士後期課程は、研究者としての自己管理が要求される。履修要綱を熟読し、課程博士を修了するためのスケジュールを常に意識しながら研究を進めること。

科目名 政策評価特別演習
Title Special Seminar on Policy Evaluation
科目区分 D 特別演習 (1 年次)

教授 佐藤 徹 (サトウ トオル)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
4

開講時期
通年

目的

・わが国では、住民に対する説明責任 (accountability) と、政策決定プロセスの透明性 (transparency) の向上、地方分権の実践段階の到来、財政難への対応などを背景に、政策評価又行政評価のシステム導入やその検討が急速に進められてきた。しかしこれまでのところ評価システムが十分に機能しているとは言いがたい。運用上も様々な課題や困難に直面している。
・本演習では、国の政策評価または自治体の行政評価に焦点を当て、今後めざすべき“評価を核とした行政経営モデル”を明らかにするとともに、その制度デザインや機能要件について、さらなる考察を行う。

達成目標

第1は博士論文を作成することである。第2は既往研究 (外国語文献を含む) を調査検討し、研究課題を適切に設定できるようになることである。第3はリサーチエンスタクション及び仮説を設定し、それらを検証するのに相応しい調査・分析技術 (定量分析・定性分析) を習得することである。第4は一定水準以上の学術論文の執筆や学会報告が行えるようになることである。

スケジュール

【1年次】

- 1 博士論文の作成に向けた基本的な姿勢と方向性についての検討確認
- 2~4 修士修了までの修得内容等に応じた基礎的知識の補足確認 (必要に応じて個別的指導を実施)
- 5~11 国内外の政策評価・行政評価、公共経営等に関する先行研究論文の輪読とディスカッション
- 12~15 調査分析手法の学習指導 (定量分析、定性分析)
- 16~18 査読誌など学術論文の投稿に関する指導
- 19~21 学会等の論文発表に向けたトレーニング
- 22~26 国内外の政策評価・行政評価、公共経営等に関する先行研究論文の輪読とディスカッション
- 27~30 博士論文の骨格 (論題、研究目的、仮説の設定、研究の方法等) に関するプレゼンテーションと指導

【2年次】

- 1~5 博士論文の作成に向けた調査に関する方向性について
- 6~10 博士論文の作成に向けた調査結果の分析と考察
- 11~15 学会報告に向けた論文の執筆指導
- 16~20 博士論文の作成に向けた調査に関する方向性について
- 21~25 博士論文の作成に向けた調査結果の分析と考察
- 26~30 学会報告に向けた論文の執筆指導

【3年次】

- 1~5 学会論文の執筆指導
 - 6~30 博士論文の執筆指導
- ※学会査読誌への投稿を指導。
※論文報告会に向けた指導も併せて行う。

教科書・参考文献

教科書 佐藤徹編『エビデンスに基づく自治体政策入門』(公職研、2021年)。その他必要に応じて演習の中で指示する。

参考書 必要に応じて演習の中で指示する。

授業外での学習

政策評価関連の国内外の学術論文をすすんで読み進めること。

評価方法

平常点 (100%)、期末試験 (0%)。

履修上の注意

- ①授業は、遠隔 (リアルタイム) で実施します。
- ②平常点は、課題 (文献調査、プレゼンテーション、博士論文の進捗状況報告等) の遂行 (50%)、ディスカッションでの発言 (50%) で構成される。
- ③行政に関する知識や経験が乏しい場合は、新聞やニュースなどに興味を持って、積極的に情報の収集・理解に

科目名 環境科学特別演習
Title Special Seminar on Environmental Sciences I
科目区分 D 特別演習 (1 年次)

教授 飯島 明宏 (イイジマ アキヒロ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 4	開講時期 通年
-----------	------	----------	------------

目的

環境政策の立案や評価、環境人材の育成に資する研究テーマを設定する。その上で、環境問題の背景にある要因を分析し、因果関係を定量的に評価するための理論と方法について探究する。まず、研究計画を再点検しつつ、着実に研究成果を上げるための工程を検討する。当該分野の先行研究をレビューし、フィールド調査、環境データの統計解析、モデリング等の手法を駆使して成果をまとめ、査読付き学術論文としてパブリッシュすることを旨とする。

達成目標

研究者としての基礎的なスキルとして、研究の立案、調査の企画、データの分析・解析、学会発表、学術論文の執筆・投稿、査読審査への対応等を、自立的に遂行できるようになる。

スケジュール

特別演習では、研究立案から論文掲載までの一連のステップを、演習生の研究の進捗に応じて支援していく。学位論文作成資格申請要件を満たす質および量の成果につながるよう、研究計画の進捗管理を行う。

・ 1年次

1回～5回 研究計画の確認、先行研究のレビュー
6回～10回 仮説設定、調査計画の立案、分析手法の検討
11回～15回 調査支援、データ分析支援
16回～20回 学会発表支援、プレゼンテーション演習
21回～25回 投稿論文作成支援 (1本目)
26回～30回 1年次研究総括

・ 2年次

1回～5回 成果の確認、進捗状況の確認
6回～15回 学会発表支援、投稿論文作成支援 (2本目)
16回～25回 学会発表支援、投稿論文作成支援 (3本目)
26回～30回 2年次研究総括

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

研究ノートを作成し、計画的に調査やデータ解析、論文執筆を進めること。また、必要に応じて研究室にて指導を受けること。

評価方法

研究の進捗状況報告、学会発表、論文発表等の取り組みを総合的に評価する (100%)。

履修上の注意

研究成果をあげることを最優先に考えて、進捗状況を自己管理すること。

科目名 地域史特別演習
Title Special Seminar on Regional History
科目区分 D 特別演習 (1 年次)

教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
4

開講時期
通年

目的

本演習では、能動的ではなく主体的に史料・文献を収集し、自立的に史料解釈、課題設定ができるようトレーニングをする。
報告の積み重ねにより、優れた論文を発表し、集大成が博士論文につながることを目的とする。

達成目標

最終的に博士論文をまとめるために、確実に個々の論文を積み重ねられるようにする。

スケジュール

- ・ 修士論文についての内容吟味と課題の確認(2回分)
- ・ 今後の研究課題の確認と指導(1回分)
- ・ 史料調査、研究の指導・助言(1回分)
- ・ 個別研究の発表と指導(2回分)
- ・ 学会発表の事前指導(1回分)
- ・ 特定の史料講読(3回分)
- ・ 以上10回を通じて、学術論文の執筆と指導を行う。
- ・ 上記のサイクル(3サイクル)により研究の蓄積・進化をさせる。
- ・ 研究の蓄積状況により、博士論文の組み立て、執筆に向けての指導をする。

教科書・参考文献

教科書 教科書：特になし

参考書 参考書：受講者に合わせたものを紹介する。

授業外での学習

学会の研究動向や自身の研究に関わる研究史の把握には、常に留意しておく。

評価方法

平常点(100%)で評価する。積極的な報告姿勢やディスカッションを総合的に判断する。

履修上の注意

ほうれんそう。報告・連絡・相談はきちんとする。授業は対面を予定していますが、受講者と相談の上オンラインで実施する場合があります。